



～夢の素材をつくる 花と絵と音楽と水のある学校～

国立二小だより

平成 27 年 1 月 8 日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

夢に向かって

校長 小林 理人

新年あけましておめでとうございます。

天気にも恵まれ、穏やかなお正月でした。皆様はどのように過ごされたでしょうか。

今年の干支は羊です。羊は性質が善く、温和で協調性に富み、発展の要素を強くもっているといわれています。今年一年が羊のようにみんな仲良く、力を合わせて皆さんにとって発展の年にしていきたいと思います。

さて、年頭にあたり学校経営方針の柱の一つである「夢の素材づくり」について6年生の取組を中心に紹介をします。

6年生は卒業に向けての取組が2学期から始まっています。

その中で、6年生の担任から「今年の卒業に向けてのテーマが『夢』という言葉に決まった」という報告がありました。

「子供たちの『夢』を育てることが学校の使命」という強い思いもあり、担任からの報告がうれしく、その文集を仕上げる過程で、私を含め本校の教員がみんなでかかわることを提案しました。そして、6年担任が計画したのは以下の活動でした。

活動① 本校の教員が自分の夢を語った映像をテレビで見る。

活動② 校長と担任が自分の夢について直接子供たちに語る。

活動③ 一人一人のよさや特徴について友達や家族の話聞く。

文集づくりの活動が始まり、6年生の教室に入ると、本校の教員が夢を語る映像や担任の語る「夢」の話を真剣に、時には大声で笑いながら見たり聞いたりしている子供たちの姿がありました。「夢」を語る教員の顔は輝いていました。そして、私も自分の夢（この学校をみんなが自慢できる学校にしたい）（一人一人の子供たちが夢をもてる学校にしたいといった内容）を子供たちに語りました。

こうして始まった「夢」をテーマにした卒業文集も完成間近となりました。一人一人のページには職業、生活、趣味など多種多様な夢がちりばめられています。一つとして同じものはありません。一人一人が自分と向き合い、友達や先生、そして保護者の皆さんの話に耳を傾けて夢の材料を集め、将来の自分の姿について書き上げた自分自身のサクセスストーリーです。

子供たちが「夢」をもつきっかけは様々です。そして、どの子供にも共通していえることは、自分の得意なところをほめられたり、自分の特技を生かして成功体験を積んだりしたときに得られる「自分自身の存在感」や「自己肯定感」「達成感」が「夢の素材」になるということです。

新しい年も子供たちの「夢」を大きく育てる年にすることを肝に銘じつつ、年始めのご挨拶といたします。本年もよろしくお祈りいたします。

